



# 瀬田の丘

創刊 1973年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部  
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



今日のみことば

待降節 第1主日 B年 (2023年12月3日)

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

第一朗読：イザヤ書 63章16b—17、19b節、64章2b—7節

第二朗読：コリントの信徒への手紙一 1章3—9節

福音朗読：マルコによる福音書 13章33—37節

## 待降節、主日のメッセージ

新しい典<sup>むか</sup>礼暦年を迎えるにあたって、まず、待降節<sup>ぜんたいざう</sup>の全体像<sup>はあく</sup>を把握しておきましょう。特に今年は、待降節第四主日と主の降誕<sup>かき</sup>の夜半のミサが同じ日に重なります。主の降誕ばかりが気になってしまい、しっかりと準備<sup>じゆんび</sup>することがおろそかにならないように気をつけたいものです。

待降節第一主日では、救い主<sup>すくぬし</sup>を待ちわびる人類<sup>ま</sup>の態度<sup>たいど</sup>が問われています。「目を覚<sup>さ</sup>ましていなさい」という呼びかけ<sup>ひび</sup>が響いてきます。

待降節第二主日は、洗礼者ヨハネ<sup>すがた</sup>の姿<sup>すがた</sup>に注目<sup>とうらい</sup>します。救い主の到来<sup>く</sup>を準備<sup>あらた</sup>し、「悔い改<sup>あらた</sup>めなさい」と呼びかけた洗礼者ヨハネのおかげで、人はこころを救い主の方へと、つまりは、神の方へと向き<sup>む</sup>を変えていくのです。

待降節第三主日は、「喜<sup>よろこ</sup>べ！」の主日<sup>しゆじつ</sup>です。神さまが約束<sup>うなが</sup>してくださった救い主の到来はもうすぐです。喜んで待つ<sup>ま</sup>ようと朗読箇所<sup>うなが</sup>は促しています。

待降節第四主日では、すでに主の降誕の八日前となつていますので、イエスさまの誕生物語の一部が福音で読まれます。

待降節とは、目を覚まして、悔い改めて、喜んで、救い主の降誕を待ち望む期間なのです。待ちこがれた末<sup>すえ</sup>に、ベトレヘムの馬小屋<sup>ねむ</sup>でスヤスヤ眠る<sup>おさなご</sup>幼子<sup>みいだ</sup>を見出すでしょう。

### 三つの朗読から

第一朗読での「立ち帰<sup>ねが</sup>ってください」という願いのことばは、わたしたちのこころに響きます。わたしたちは神に向かって、来てくださいと願うのです。なぜならわたしたちこそが「あなたを待つ者」だからです。神の他には待望<sup>たいぼう</sup>できるものは何一つないと知っているのです。

第二朗読を読むと、恵みと平和は神さまからやって来ることに気付<sup>きづ</sup>かされます(4節参照)。それは

「キリストに結ばれて」(5節)、あるいは「キリストのお陰で」(同 フランシスコ会訳)生じるものなのです。福音朗読で繰り返される「目を覚ましていなさい」は日常の生活のなかに来られるイエスさまを、油断せずに目を覚まして待ちわびていく、わたしたちの生きる基本姿勢を表しています。

福音朗読をていねいに見てみましょう。

33節に「目を覚ましていなさい」とあります。何に目を覚ますのかは、はっきりしていません。なぜ目を覚まさないといけないのか、その目的もはっきりしていません。ただ、ここでは「目を覚ましている」ことの重要さだけが強調されます。なぜなら「人の子が戸口に近づいている」(29節)からです。「目を覚ます」の原語は「グレーゴレオー」です。これは「待つ」の同義語だそうです。「目を開けて、眠り込まずにいる」の意味が元々ですが、そこから発展して「待ち望んでいたことを取り逃すことのないように、油断せずに目覚めている」という心の状態、心構えの意味が生じます。

34節にも同じような表現「目を覚ましているように」があります。そして、小さなたとえが語られます。「旅に出る人」とは、受難と死、復活の後に天に戻っていく(昇天)イエスを指すと理解してよいでしょう。「僕たち」、「門番」とは残された弟子(使徒)たちと取ってよいでしょう。そして、弟子(使徒)たちによって教会が建てられたのですから、目を覚ましているのは教会です。

再び35節に「だから、目を覚ましていなさい」とあります。これは33節と対応しています。二人称複数形で書かれています。時を表す表現が続きます(「夕方か、夜中か、鶏の鳴くころか、明け方か」)。主人が帰ってくるのが「いつ」であるのかは、人は知らないからです。その時を知ってるのは「父」だけです。32節に注目してください「その日、その時は、だれも知らない。天使たちも子も知らない。父だけがご存じである」と記されています。

目を覚まして待つのは、世の終わりの裁きではなく、キリストが再び来られることです。その時、人は神の慈しみに触れるのでしょうか。

## お知らせ

### クリスマスの予定

12月24日(日) 待降節第4主日

ミサ時間：7時(修道院のミサ)、8時半、9時半

主の降誕の夜半のミサ ミサ時間：17時、19時、21時

12月25日(月) 主の降誕の日中のミサ

ミサ時間：7時(修道院のミサ)、10時